

不思議ふしぎ!?

千日詣の謎

せんにちまいり

熱狂と興奮の祇園祭が過ぎた七月も終わりの一夜、愛宕山はこの日限りの参詣客で賑わいます。この日に参ると千日分のご利益がいただけるという「愛宕さんの千日詣」です。

いま誰も不思議とも何とも思わず頂上の愛宕神社にお参りし「阿多古祈符」と櫓をいただき台所にお祈りします。

しかし、この千日詣という風習は、もともと観音信仰に基づくものなのです。観音様の縁日は十八日ですが、これと別に功德日という日があり、なかでも8月10日(旧暦7月10日)は千日分の功德が得られるとされました。現在千日詣を行っている主なお寺は清水寺(8/14・15・16)、四天王寺(8/9・10)、葛井寺(8/9)など。清水寺はもちろん、四天王寺は秘仏「試みの観音」がこの両日のみ開扉されますし、葛井寺は実際に千本の手を持つ千手観音で有名とすべて観音様のお寺。千日詣を

旧暦(7月10日)で行っている東京・浅草寺のほおづき市は葛井寺同様四万六千日の縁日といわれます。四万六千日は昔は一年三百六十日ですから約二二八年間。人が生きられる限界とされてきました。それに一升の米粒が四万六千粒と言われ、一升分、つまり一生分の功德を受けるといわれます。

なお現在、清水寺の千日詣の日程が違うのは、珍皇寺六道まじりとの絡みで少々複雑です。

元来「千」は千手観音、千体観音など観音様にちなむ数字です。ではなぜこの千日詣が愛宕神社で行われているのでしょうか。どうやらこの「千」は観音様だけのゆかりではなさそうです。

愛宕神社は現在は神社ですが、それは明治以後のこと。もとはお寺で白雲寺といい、馬にまたがり甲冑をつけた闘うお地藏様「勝軍地藏尊」をお祀りしていました。

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都
検定

京都・観光文化検定試験
京都商工会議所



愛宕さんの千日詣
「お上りやす」「お下りやす」の声が行き交う



勝軍地藏
東京 愛宕・真福寺

愛宕山の千日詣は、江戸時代は秋里籬島の『都名所図会』でも、黒川道祐の『日次紀事』でも6月24日の行事です。江戸開府とともに京から勧請された東京の愛宕神社は現在でも6月24日に行っています。もちろん家康が江戸に勧請したのは勝軍地藏で、24日はお地藏様の縁日なのです。そういえばお地藏様がたくさん集まると「千体地藏」などといえます。京都にも清水寺、大徳寺など千体地藏は数多くあり、有名な醍醐寺理性院の千体地藏は勝軍地藏尊です。

勝軍地藏の功德日詣りだったものでしょう。日程も江戸時代は6月23、24日でした。それが明治初年に新暦の7月23日となり、一時中断したのち、明治38年に8月1、2日となり、その後現在の7月31日、8月1日となり、「千日通夜祭」となりました。

この変遷は、わが国の神仏混交、神仏習合、神仏分離の歴史を如実に反映しています。まだまだ謎の多い千日詣ですが、皆さんが当たり前と思っておられる行事や神事の中にこそ歴史の秘話が隠れているはずですね。

(京都学園大学非常勤講師 堤勇二)